



1



2



3



旧安倍家平面図

1 茶の間。神棚下の襖絵は墨書された干支から明治10年に描かれたとされている 2 二階座敷。舟底天井、アワビ貝殻を散らした壁面、銘木などを使った床構えの様子 3 外観。右手平屋は寺社建築風の入母屋造り、左手二階は寄棟造りと屋根構造が異なる ※例年、日高火防祭本祭の日に特別公開している



奥州遺産

— ときを越え

受け継がれるもの —

第138回

旧安倍家住宅

水沢字日高小路

水沢伊達氏一万六千石の城下町の名残が現在も見られる日高小路。日高神社の鳥居を背に東へ100歩歩くと、右手に高くそびえる老松が目に入る。堀の内側には老松にちなむ庭園「翠松園」を有する近代和風住宅「旧安倍家住宅」がある。この住宅に建築年代を示す棟札はないが、郷土の画家佐藤耕雲による襖絵から明治10(1877)年頃には完成したようである。

住宅は庭の景観を重視しており、東面に玄関を設け、玄関間、茶の間と奥へ進み、右手に中座敷、上座敷が並ぶ。これは庭の3本の老松を生かした設計とみられる。玄関間の上部に設けられる2階は10畳の座敷。舟底天井と大粒の貝殻片を散らした砂壁が特徴の数寄屋(小規模な茶室)風の意匠を凝らす。南の壁には大きいアワビの貝殻があしらわれ趣を増す。江戸時代から明治時代へと激動の変化を遂げた近代日本。市内の近代和風住宅の先駆けとなった旧安倍家住宅は、時代の変化を今に伝えている。

広告